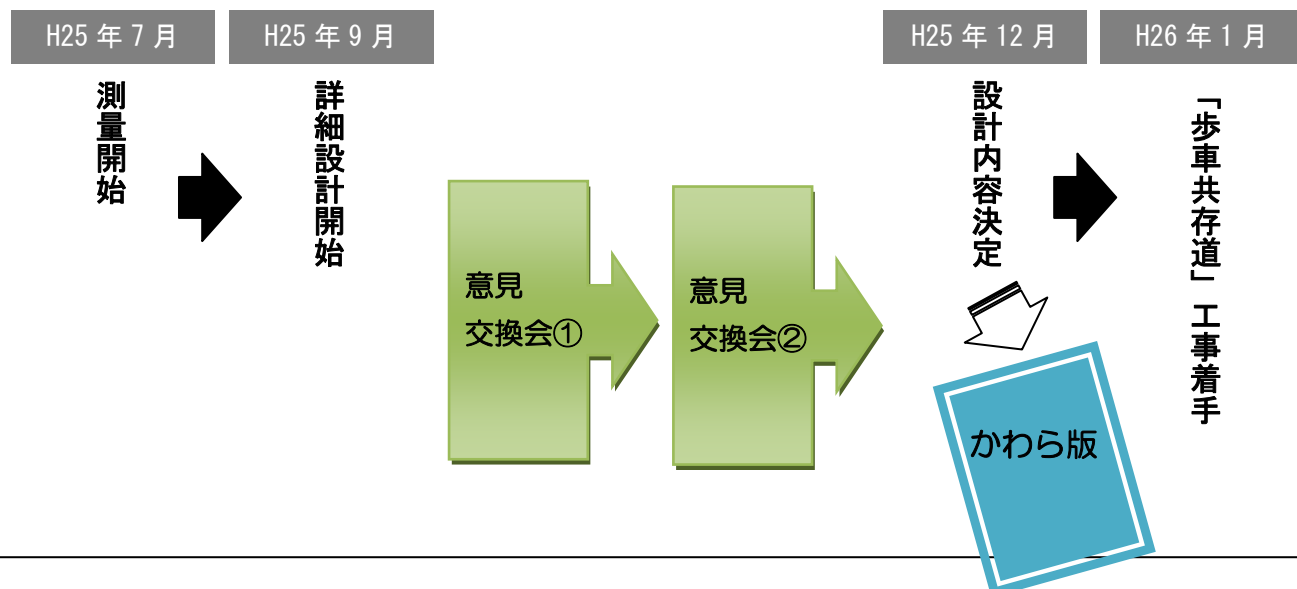


<今後のスケジュール（案）>

-----工事期間は H25 年度～H27 年度の 3 ヶ年を予定していますが、地元調整や下水道工事との調整などにより変更となる可能性があります。



<道路の利用状況>



H25 年
6 月

第 4 号

みんなで
地域の道路を
考える



池田中町線 かわら版

第 3 回

「県道池田中町線を
考える会」開催

地域の意見を尊重し
「歩車共存道」で提案

5月27日（月）隠岐合同庁舎6階大会議室にて、「第三回県道池田中町線を考える会」を開催し、3回にわたり実施した地域の方との意見交換会の状況および集約した意向について報告するとともに、「考える会」としての検証を行いました。

3回にわたる意見交換会で集約した地域の方の意向は、「地域のコミュニティを維持するため、できるだけ拡幅を行わず、「歩車共存道」としての整備を目指す。」というものでした。「考える会」では、その意見交換会での地域の意見を尊重し、「池田中町線を「生活道路」として位置付け、「歩車共存道」としての整備を目指す」ことを、島根県および隠岐の島町へ提案することとしました。

※歩車共存道とは、歩行者、自転車のサービスを優先し、自動車に対するサービスを限定する道路のこと。



第3回 考える会での議論――

【側溝整備について】

側溝が整備され、蓋の上まで利用範囲が広がることで、道路が広がった感覚となるので、速度抑制のためには外側空間を強調した色や形にする工夫が必要である。

【交通量を減らす仕掛けについて】

ホンダカーズの交差点から南の方へ進入する車の量を減らすため、特にホンダカーズの交差点で違和感を演出することが重要である。

【環状道路の信号連携について】

歩車共存道として整備し、なおかつ信号連携により赤信号で何回も止まることがなくなれば、むしろ環状道路の方が早くなるのではないかと。環状道路への迂回の呼びかけも重要である。

【照明について】

県道で多くみられる車のための明るい照明灯は必要なく、生活道路として人が歩くのに差し支えない程度の灯りがほしい。

今後は、7月あたりから測量を実施し、詳細設計の中で、地元のみならず協議しながら進めていく予定です。

提案

提案内容中面参照

「県道池田中町線を考える会」では、地域の皆さんの意向を尊重した道づくりの方向性について、隠岐支庁長と隠岐の島町長に提案しました。



松田隠岐の島町長への提案（6月12日） 和田隠岐支庁長への提案（6月10日）



地区の人が安心して歩ける生活道路とするために——「県道池田中町線を考える会」

検討の経緯

島根県では昭和 37 年に、県道池田中町線の一部を、都市の健全な発達と秩序ある整備を図るために拡幅・改良を行う都市計画道路（中町中條線および中町東町線）として位置づけました。しかし、社会情勢の変化や周辺道路の整備による環境の変化から、現在でも当該区間は未改良で整備されておりません。この未改良の区間について、「地域にとってどのようにすればより良い道路となるのか」、今後のあり方を検討することとしました。

検討の流れ

平成 24 年 12 月 5 日に設立した「県道 池田中町線を考える会」は、地元関係者、隠岐の島町関係者、島根県関係者で組織し、基本的な考え方を調整する場として 3 回開催しました。この間、地区内外の人々がこの道をどれくらい利用し、どのような意見をお持ちか把握するため、交通量調査・アンケート調査を行いました。また、当該路線周辺にお住まいの方々や商売をなさっている方々との「意見交換会」を 3 回開催し、住民の意見を把握しながら検討してきました。

「考える会」 ①H24.12.5／②H25.1.21／③H25.5.27
「意見交換会」 ①H25.2.21／②H25.3.14／③H25.4.23



意見交換会での意見

意見交換会での意見

県道池田中町線を考えるにあたり、枠を設けずに、“現状の道路幅で工夫する案”から“拡幅する案”まで自由な発想で検討を始めました。

第 1 回意見交換会では、「どんな道にしたいか」をテーマに話し合い、「車が走りやすい道ではなく、歩行者が歩きやすい道」という結果になりました。

第 2 回意見交換会では、バスの通行もある「新しい住宅地」、一番狭いところのある「古くからの住宅地」、目貫通りとして栄えた「商業地」の 3 つのゾーンに分け、それぞれのあり方を検討しました。その結果、地域のコミュニティを維持するためにも拡幅はしない方法で工夫することとなりました。また、まちの賑わいのためにも景観に配慮することとなりました。

第 3 回意見交換会では、ゾーン毎に考えられる整備案について検討したところ、全線において「歩車共存道」として整備し、車を優先するための道路ではなく、地区の人々が生活道路として「安心して歩けること」が優先されるよう、歩行帯をつくることで一致しました。しかし、道路全体の幅については、現在の道路幅は変えずに車道部を狭くするといった案と、一番狭いところは少し広げる案の両方となりました。

基本理念 車の走りやすい道ではなく、歩行者が歩きやすい道
整備方針 できるだけ「拡幅しない方法」で工夫する

考えられる整備案は
歩車共存道「歩行者、自転車のサービスを優先し、自動車に対するサービスを限定する道路」

右の写真は、現状の道路幅員はそのままにして、「歩車共存道」として整備した場合のイメージ CG です。

歩行帯の幅、車道の幅、速度制限の 30 キロなどは仮の設定です。実際の幅や、一部拡幅しなければならないところは、今後調整する必要があります。

共通事項として「実施できそうなこと」
○車のスピードを抑える仕掛け（例：速度規制）
○地区外の車への影響を最小限に（例：環状道路の信号連携）
○路面を歩きやすく改善（例：凸凹、かまぼこ状、側溝のふた）
○交通安全施設の設置（標識、照明等）
その他
○下水道工事と道路工事を同時期に（効率・騒音等影響減少）

現況

整備イメージ例



提 案

県道 池田中町線「中町工区」の今後のあり方について、地区での意見交換会の結果を踏まえ、以下のことを提案する。

1. 基本理念
『都市計画道路（幹線道路）をとりやめ、生活道路として位置づける』
『車の走りやすい道ではなく、歩行者が歩きやすい道を目指す』
2. 整備方針
『できるだけ“拡幅しない方法”で工夫する』
3. 整備の方向性
 - ① 全線にわたり「歩車共存道」を目指す。
 - ② 地域のコミュニティを維持するため、大規模な拡幅は行わない。
 - ③ 地区外の抜け道利用については、環状道路の信号連携で時間的に早くなるよう検討するとともに、迂回への協力を呼びかける。
 - ④ 下水道工事と施工調整を行い、コスト縮減や周辺への影響軽減を図る。
4. 実施設計にむけて、地区のみなさんと共に計画づくりを行う

平成 25 年 5 月 27 日
県道 池田中町線を考える会

県道 池田中町線を考える会 名簿

■委員

大 田 耕 士	西郷中町連合会	会長
門 脇 範 佳	西郷東町連合会	会長
野 村 吉 秀	出雲結自治会	会長
佐々木 隆	西郷小学校	校長
富 田 信 吾	西郷中学校	校長
柳 谷 英 正	隠岐の島町商工会	事務局長
黒 澤 聡	隠岐広域連合消防本部	警防課警防係 消防指令補
大 田 和 美	隠岐の島町警察署	交通係長
奥 村 恭	隠岐支庁県土整備局土木工務部	部長
井 川 善 寿	隠岐の島町建設課	課長

■アドバイザー

橋 本 成 仁	岡山大学大学院 環境生命科学研究科	准教授
西 尾 博	道路建設課道路環境整備グループ	グループリーダー
妹 尾 圭 人	都市計画課計画グループ	グループリーダー